



2020 年 12 月 | 2020-2021 第 3 号

ワイズメンズクラブ国際協会 アジア太平洋地域 ブリテン

主題:変化をもたらそう

スローガン:奮い立たせよう



千葉ウエストクラブの国際協会加盟認証状伝達式が 2020 年 10 月 3 日、東京・浅草橋ヒューリックカンフェレンスで開催されました。この新クラブは、東日本区 Change! 2022 プロジェクトの一環で誕生しました。(P9 参照)



ペンディゴYサービスクラブは、クリスマスツリーセール他のファン
ド作りを非常に活発に行っています。ケン・モリソン(写真右)は 90
歳を超えていますが、クリスマスツリーによるファン作りを約 20
年間行っています。



目次

- 地域会長メッセージ 2
- 東日本区特集 3-10
- ワイズ/YMCA パートナーシップ 11
- リーダーシップのツールとしての
歴史 12
- キリスト教強調 13-15
- グリーンコーナー 15
- ニュース 16



地域会長からのメッセージ

2020 年の終わりを迎えようとしています。この 10 ヶ月間のパンデミックによる個人生活や経済への混乱を振り返るとき、私たちは、大きな希望を持って新年を迎え、克服する力を与えてくださった神への感謝を常に忘れないようにいたしましょう。

12 月は、贈り物を贈る月であり、お祝いの季節です。子供たちは、待望の贈り物を受け取るのを楽しみにしています。イエスの誕生を祝うとき、クリスチャンは、世の救い主となるために処女から生まれた一人息子を神から贈られたことを喜びます。イエスは、信じる者に永遠の命の希望を与えてくださいます。イエスは、この壊れて、争いの絶えない世界の試練を乗り越える強さと勇気を与えてくださいます。ワイズダムでは、私たちは、世界をより良い場所にすることを目指しています。私たちは、より良い明日のための活動を実施します。私たちは、イエス・キリストの愛を分かち合い、他の人々を思いやり、善を行い、疎外された人々や困っている人々に助けの手を差し伸べることによって、イエス・キリストの教えを伝えます。ワイズのメンバーは、それぞれの立場に関係なく、可能な限りの経済的援助やフェイスマスク、米、食用油、その他多くの基本的なニーズに応えるために、愛の行為を提供してきました。新型コロナウイルスのシナリオが予測できない期間続く可能性があるため、クラブは、社会奉仕活動のアプローチを調整する必要があります。

パンデミックの影響で、国際的な旅行が制限されています。悲しいことに、多くの人が楽しみにしていた 2020 年 8 月にデンマークのオーデンセで予定されていた国際大会は、中止せざるを得ませんでした。同様に、友情を育む機会を提供する多くの区大会や区の会議も延期またはキャンセルされました。このような状況にもかかわらず、世界中から集まったワイズの男性と女性は、Zoom によってではありますが、出会いと親睦を深めることができました。私

たちは、特に現在の問題のある状況の中で、出会いを続け、「互いに愛と善行に励むように心がけ……ますます励み合おうではありませんか」(ヘブライ人への手紙 10:24-25)。ジェイコブ・クリステンセン国際会長が、ヨハネの黙示録 22:1 から引用した非常に適切なスローガンである「命の川を信じよう」を実践しましょや。その川は、どこを流れようと命を与えてくれます。ヨハネによる福音書 4:14b では、イエスは「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出る」と宣言しています。これは、クリスマスの最大の贈り物です。それは、すべての人に希望を与えてくれます。2021 年の新年に向けて、私たちが住む地域社会に希望の光を与え、真の意味で「変化をもたらそう」を実現すべく、私たちのメンバーが活動的であり続けるように、奮い立っていきましょう。

クリスマスに向けて、そして新しい 1 年に向けて、ワイズメンズクラブ国際協会、特にアジア太平洋地域のすべての人たちに計り知れない深い感謝の意を表したいと思いません。皆さんの積極的な関与と支援なしには、このような素晴らしい活動を実現することはできませんでした。私たちは、奉仕活動を続けながら、希望を持ち続け、強靱なクラブづくりに向けて手を携えていきましょう。

祝福されたクリスマスと充実した新年が皆さんとご家族の上にありますように。

地域会長 デビッド・ルア

編集長からのメッセージ

素晴らしい地域ブリテンチームのおかげで、良いスタートを切ることができました。先月は、オーストラリア区に焦点を当てました。今月は、東日本区の特集です。その歴史や現在のプロジェクトなどについての情報が掲載されています。

次の号(2021 年 2 月)では、西日本区の特集ですので、西日本区のリーダーやクラブは、活動を紹介する記事や写真を提供していただきたいと思います。

2021 年 1 月は、地域ブリテンを発行しません。2021 年 1 月は、Week4You とエンダウメント・ファンド(EF)の強調月間です。

2021 年 2 月は、タイムオブファスト(TOF)とユース短期交流プログラム(STEP)の強調月間です。

ブリテンに掲載するために、関連する記事や写真をお送りください。

アジア太平洋地域の Facebook ページでも、私たちの活動についてのストーリーや写真を共有することができます。

このブリテンは、画面から読むことができますので、印刷する必要はありません。

コリン・ランビー

東日本区のきのう、きょう、あした

東日本区が発足して 23 年になります。その略史、私たちの区の特徴、継続して行っているいくつかの事業をご紹介します。現在は、新型コロナウイルスのため対面での諸活動が難しい状況ですが、Zoom などの新たな方法で活動を続けています。

区の会員の現勢(2020 年 7 月現在)は、下表のとおりで、現在の最大の課題は会員増強です。東日本区発足以来、会員の減少と会員の高齢化が進んでいますが、これらを乗り越えて 2022 年末に会員数を 1,246 名にする「Change! 2022」キャンペーンを実施中です。

また、私たちの社会的信用の向上、知名度の向上、ガバナンスの向上と、それらが会員増強にもつながることを期待して東日本区の法人化の検討を進めています。私たちも私たちを取り巻く環境も常に変化しています。変化への適応、変化の先取りをしてワイズダムの発展に貢献していきたいと思っています。
「変化を楽しみましょう。」

部	クラブ数	会員数
北海道部	4	46
北東部	11	132
関東東部	10	132
東新部	7	88
あずさ部	10	166
湘南・沖縄部	9	101
富士山部	9	165
東日本区合計	60	830



2010 年 横浜国際大会

東日本区理事 板村哲也



東日本区の歴史

東日本区は、1997 年 7 月 1 日から、日本区を東西に分割する形でスタートしました。東西日本区の分割案は、ワイズダムが発展する 1970 年代以降の過程で、組織の肥大化に伴う硬直化やコミュニケーション不足などの問題の解決策として浮上しました。1987 年の代議員会で日本区分割検討委員会の設置が承認され、区分割の準備に入り、1993 年には東副区、西副区が設置されました。1995 年 1 月、阪神淡路大震災が発生、その余燼が残る中での代議員会で東西に分割することが最終的に決定されました。新しい東日本区の基本方針は、部の強化に力点を置き、経費削減のために区は「小さなキャビネット」とし、部長の役割と責任は、従来の理事に匹敵するものとなりました。

1997 年スタート時は、7 部、57 クラブ、1,246 人の会員数でした。その後、クラブ数は、微増するものの、会員数の減少が続きました。これに危機感を持ち、会員数 2,000 人を目指す「2000 プロジェクト」運動が 2008 年に始まりました。その成果のひとつとして 2009 年 11 月には、会員数 107 人の沖縄クラブが誕生しました。

2010 年には、第 69 回国際大会(横浜)を東日本区がホストし、1,275 名の参加者の下、国際協会全体でカーボンニュートラルを目指す「横浜宣言」が採択されました。

2011 年 3 月 11 日、東北地方(東日本区の北東部のエリア)の太平洋沖を震源とする大地震(東日本大震災)が発生、大津波によって福島原子力発電所が崩壊するなど、日本の自然災害史上、最も甚大な被害が生じました。東日本区では、速やかに支援対策本部を設置し、YMCA とともに被災地への支援活動を展開しました。この支援活動が切っ掛けとなり、2016 年、地元宮城県に「石巻広域クラブ」が誕生しました。大震災から 10 年が経過しようとしている現在も、私たちは、被災地に寄り添った支援を継続しています。

2019 年 7 月には、宮城県の県庁所在地で被災地の都市である仙台市で、第 28 回アジア太平洋地域大会をホストし、811 名の参加者は、震災の脅威と復興の現在を学びました。



2019 年 仙台アジア太平洋地域大会

近年の区としての大きなプロジェクトとしては、区の定款の改定が挙げられます。東日本区の定款は、区発足後、2003 年に一度改定されましたが、時代の変化にマッチし、これまでの国際憲法の改定にも適合するものとすべく、2014 年にワーキングチームを設置して検討を始め、各部での検討、区代議員会での承認、

国際協会憲法レビュー委員会の審査、国際議会の承認を得て、2018 年 7 月に発効しました。



東日本区になってからの地域会長は、1999-2000 年度が奈良昭彦(東京八王子クラブ)で、第 18 回地域大会を北海道十勝で主宰しました。その後は、2007-2008 年度の藤井寛敏(東京江東クラブ)、2010-2011 年度の高田一彦(当時横浜クラブ、現在千葉ウエストクラブ)、2018-2020 年度の田中博之(当時東京クラブ、現在東京多摩みなみクラブ)です。藤井寛敏は、2010-2011 年度の国際会長も務めました。

2020 年 11 月 1 日の東日本区の現勢は、61 クラブ、847 人です。現在、2022 年までに、東日本区スタート時の会員数 1,246 人を目標とする会員増強運動「Change!2022」を展開中です。

(日本でのワイズの始まりから、東西日本区分割までの歴史は、YMI ワールド 2019-2020 第 4 号をご覧ください。)

ファンド事業で活力

東日本区における特徴的な活動としてクラブの地元の特産品を販売してのクラブのファンド作りがあります。1977 年にチャーターした十勝クラブは、設立当初から、当地がジャガイモの一大生産地であることにヒントを得て、これを全国のクラブに販売し、その益金で CS 活動や YMCA サポートに役立てる“ジャガイモファンド”を始めました。今年は、西日本区も含めた 51 のクラブや教会などに、総重量 137 トンのジャガイモと 21 トンのカボチャを出荷しました。このファンド事業の特徴は、ジャガイモやカボチャを購入したクラブが、それをまた販売し、自分のクラブのファンドにしていることです。



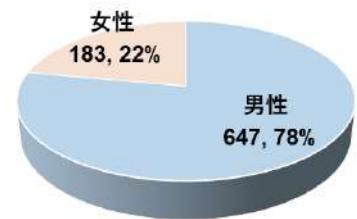
また、松本クラブは、文旦を販売し、その益金をアジアからの私費留学生を支援するための作文コンテストの入賞者に奨学金として支給しています。今年で 22 年目となる活動です。

これまで、他にもさまざまなクラブが地元の特産品を販売しています。品物は、サーモン、リンゴ、さくらんぼ、はちみつ、ワイン、サツマイモ、梨、お茶、アジの干物等で、まさに「ワイズ百貨店」の様相です。これらの物品でワイズメンの食卓が彩られているとも言えます。

女性会員の活躍

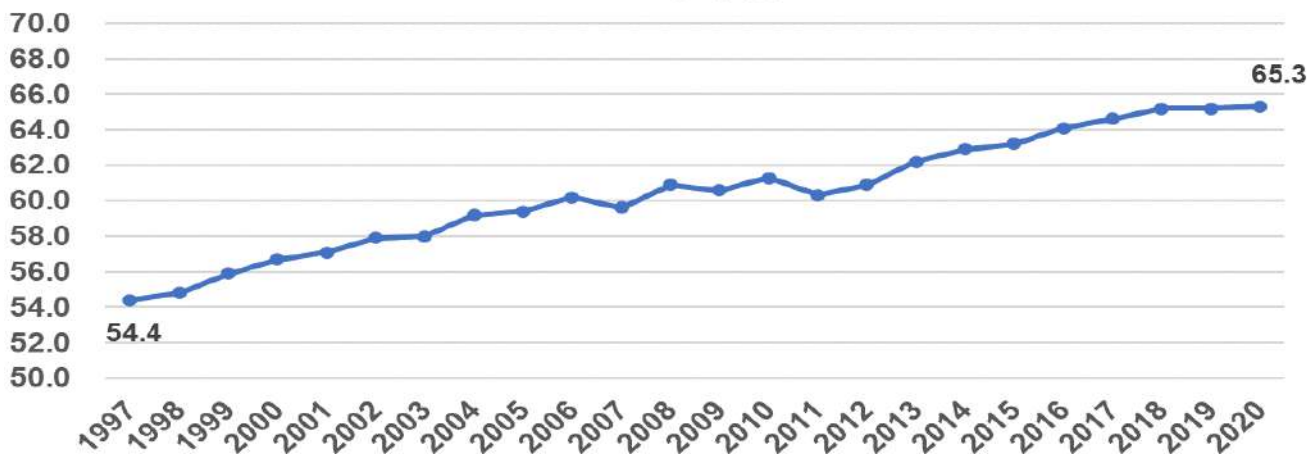
ワイズメンズクラブ国際協会で女性会員が認められたのは 1974 年です。ちなみに、同じ国際奉仕団体であるライオンズクラブは 1987 年、ロータリークラブは 1989 年であり、ワイズは、これらの団体より 10 年以上も早かった訳です。日本での女性会員第 1 号も、その 1974 年でした。日本に限らず女性会員は、次第に増加していると思われますが、東日本区における女性会員の活躍に目を向けてみると、区創設以来 24 年間の中で 3 人の女性が理事を務めています。また、部長においては 15 人が、事業主任においては 12 人が区の役員としてこれまで活躍しています。特に 2013-2014 年度は、理事、7 部のうちの 3 部の部長、4 人の事業主任のうち 3 人が女性という年でした。2003 年 5 月には、女性だけのクラブである、「東京たんぽぽ Y サービスクラブ」が誕生しました。2006 年には、「横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ」が誕生しています。今期スタート時のデータによると、女性会員が半数を超えるクラブが 6 クラブあり、東日本区全体では約 22%が女性会員です。2011-2012 年度は、17.4%であったので、女性の割合が着実に増加しています。なお、ワイズメネットも活躍していて、各クラブや部でワイズメンズクラブの活動を支援したり、区全体で YMCA の幼児教育施設に絵本を贈ったりなどの事業を行っています。

東日本区会員の性別

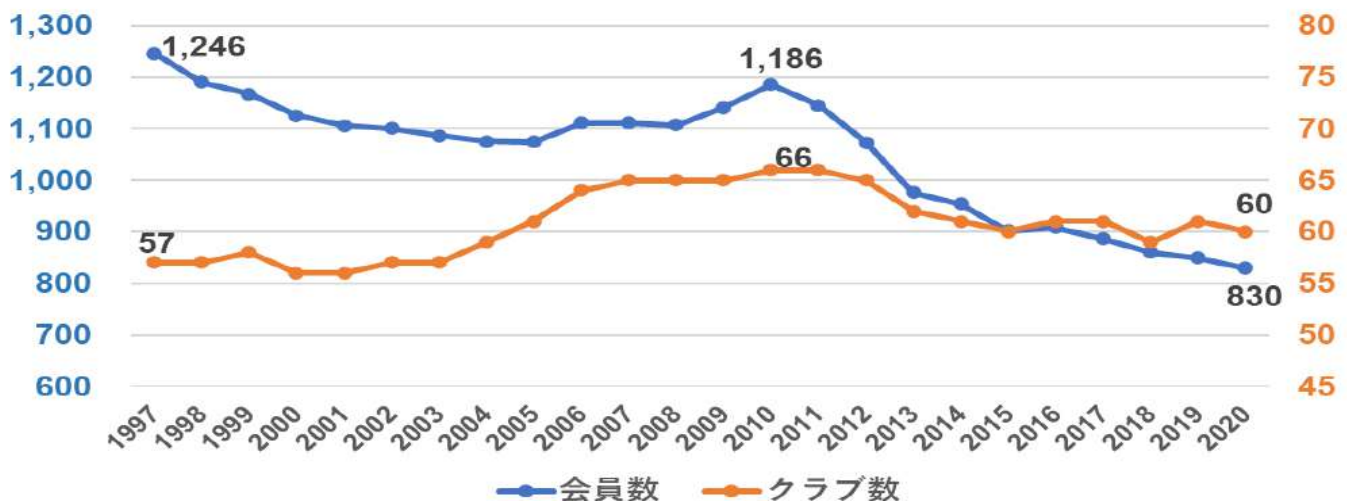


東日本区会員データ

平均年齢



会員数、クラブ数の推移



音楽好きな東日本区

ワイズの各種集会では、冒頭「ワイズソング」を歌うのが慣例になっていますが、東日本区では7つの部のうち、4つの部が「部の歌」を持っていて、部大会や部評議会などの折に歌っています。また、クラブの歌を持っていたり、愛唱歌を決めて例会の閉会時などに歌っていたりするクラブもあります。

地域の高齢者を対象にした「歌声サロン」を展開しているクラブがあります。子どもの頃に歌った童謡などをソングリーダーのもと、皆で歌うプログラムです。東日本大震災後、被災地の老人ホームへ「出前」もしているクラブもあります。毎年チャリティーコンサートを開催しているクラブもあります。2019年にチャーターされた「東京町田スマイリングクラブ」と「横浜つるみクラブ」は、音楽好きのメンバーが多く集まって設立したクラブで、音楽に関係する奉仕活動を展開しています。



ユースとともに

ユースボランティア・リーダーズフォーラム(YVLF)は、1987年、現在の東日本区の地域に属する3つの部の合同プログラムとして始まりました。当時、各地のYMCAで活躍しているユースリーダーが、他のYMCAのリーダーと交流し啓発しあう機会が無かったため喜ばれました。その後、東日本区が始まった1997年に7部の合同主催となり、東日本区全域にわたるフォーラムとなり、現在は、東日本区の主催で行われています。2泊3日の日程で、YMCAスタッフの企画・運営によって、講演、実技体験、グループディスカッションなどが行われています。ワイズメンバーがスピーチする時間も持たれています。毎年30名前後のユースリーダーが参加していて、このフォーラムのために、東日本区各クラブは、財政的支援を行っています。また、ユースクラブが行っていた、アルミ缶飲料のプルタブを集め、車椅子を得る活動に協力し、途中から区の事業として引き継ぎ、毎年福祉施設などに車椅子を贈呈しました。

2011年からは、国内・国際協力、人道支援、NGO、社会起業等様々なニーズを持っているユースが集まり、互いに学び夢を実現する仲間をつくり、方法を具体的に考えるフォーラムとして「オープンフォーラム Y」を開催しています。



東日本大震災発生からまもなく 10 年を迎えて

東日本大震災の概要

2011 年 3 月 11 日に宮城県牡鹿半島の東南東沖で発生した地震は、巨大な津波を生み、日本周辺における観測史上最大の震災となりました。

この地震によって東北・関東地方の太平洋沿岸部には壊滅的な被害が発生しました。これに伴って福島第 1 原子力発電所の事故も発生しました。

死者は 15,899 人、行方不明者 2,528 人、震災関連死者数 3,739 人(2020 年 11 月 30 日現在、政府発表)となりました。

復興の状況

地震・津波被災地域では、公共インフラの復旧工事もおおむね終了し、被災者は仮設住宅から退去、公営住宅など恒久住宅への移転が進んでいます。地域の人口減少や高齢化が進み、新たなコミュニティー問題が発生しています。

福島の原子力災害被災地域においては、帰還困難区域を除き大部分の地域の避難指示が解除され、行政は地域の復興再生に向けて、様々な政策を実施していますが、帰還住民数は、震災前の 5%にも満たないところが多いです。



石巻で最も被害の大きかった、門脇、南浜地区の復興状況

YMCA とワイズメンズクラブの復興支援活動

震災直後から YMCA は、岩手県宮古市と宮城県石巻市と仙台市の 3 か所にボランティア支援センターを設置し、全国の YMCA と東西ワイズメンズクラブは、延べ 1.5 万人にもおよぶボランティアを派遣し、支援活動を続けてきました。この間、世界各地の YMCA やワイズメンズクラブから多くの支援と励ましをいただきました。

今後の課題と私たちの取り組み

現在、被災地で活動するボランティア団体は最盛期の 10%にも満たない状況です。被災地住民にはいまだ震災で受けた身体や心の悩みを抱える人が多いです。震災の風化が進むなか、震災を覚えていない子どもたちが育ってきました。そして今日、新型コロナウイルス禍は、地元中小企業にも多大な影響を及ぼしています。



こども図書館でのお話しの会

私たちのこれからの活動は、震災で尊い命を失った人たちに少しでも報いるために被災地の真の状況を国内外に発信することです。今後も世界各地に発生が予想されるさまざまな自然災害の被害を最小限に抑えるために、私たちにできる支援活動を YMCA とともにこれからも続けていきたいと思ひます。

コロナ禍での CS 活動

コロナ禍で、各クラブでの活動も制限されています。少人数で集まれるクラブ、大人数でも食事抜きで短時間集まるクラブ、Zoom や Zoom とリアルとのハイブリッド例会を持つクラブなど、それぞれです。

CS 活動では例年、キャンプ、スポーツ大会、ウォーキング、スピーチコンテスト、コンサートなど、いろいろなイベントが行われていますが、今年は、中止若しくは開催検討中です。

コロナ禍で CS 活動を行うにあたり、注目されているいくつかのポイントがあります。子ども支援、貧困問題、ユース・留学生・シニアサポート、被災地支援、そして YMCA サービスです。

子ども支援については、コロナ以前はスポーツ大会、不登校支援や居場所サポート、子ども食堂などが注目されていました。コロナ禍では、生活困窮世帯の問題が徐々に明らかになり始めました。問題は、見た目には困窮家庭がわからないことです。

YMCA や他団体と協働し、子ども支援を行うクラブが出てきています。ユース・留学生サポートでは、コロナ禍で手作りマスクを有志で作って配ったクラブ、食料支援を行ったクラブがありました。

シニアサポートについては、以前は歌の広場や体操の機会を作っていました。コロナ禍では多くのクラブが活動を休止しています。いくつかのクラブが Zoom やオンラインを使い、歌のサポートの新しい形態を模索中です。また、秋になり、ウォーキングの会を再開したクラブもあります。

YMCA サポートではこれまでのファンドレイジングや協働事業への参画に加え、リーダー支援でクラウドファンディングに協力をするなど、ワイズが個々にネットを使った協力も少しずつ始まりました。

また、新しく始まった Week4Waste については、クラブで集まれる状態ではありませんが、区では個人的に環境美化を進めるようにアナウンスを行っています。2021 年 4 月に開催予定の国際協会のワイズクリーンアップ週間につなげて行きたいと思います。

わいわい食堂(川越クラブ)



つながりマスク(湘南・沖縄部)



レンゲソウの種蒔き(東京江東クラブ)



千葉ウエストクラブ、国際協会加盟認証状伝達式開催

10月3日に千葉ウエストクラブの国際協会加盟認証状伝達式が浅草橋ヒューリックカンファレンスにて行われました。

東日本区では Change! 2022 プロジェクトを、昨年度からスタートし 2022 年までに 1997 年の東日本区発足当時の会員数である 1,246 名以上にしようという目標を掲げています。

そのプロジェクトの中から生まれた新しいクラブです。関東東部部大会(柿沼敬喜部長)の中でチャーターナイトが行われました。

コロナ禍の中、防染対策として、参加者全員に手洗い消毒およびマスク着用を徹底し、参加人数を会場収容定員数の 50%に絞り、密を避けた座席配置(市松模様)、司会者用飛沫防止ビニール板(手作り)の設置、挨拶用マイクも 2 本を用意し、一人ひとり使用の都度消毒し、マイクカバーとしてのクリーンペーパーも交換する等々徹底して行われました。懇親会も中止とし、弁当による昼食のみとしました。

東日本区としては 61 番目のクラブとして関東東部では 11 番目のクラブとして、チャーターメンバー 8 名(高田一彦会長(元アジア地域会長))での発足となりました。

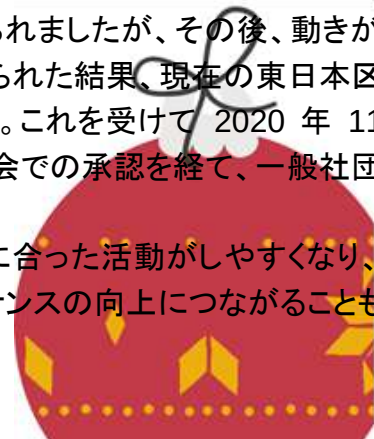


東日本区の法人化

日本のワイズメンズクラブの法人化の検討は、1992 年に始まりましたが、1997 年に日本区が東西日本区に分割となり、検討は、それぞれの区で持ち越しとなりました。

東日本区では 2012-2013 年度に法人化の動きが始まり、数年間検討が続けられましたが、その後、動きが中断しました。2019 年 3 月に法人化検討委員会が設置され、詳細検討が重ねられた結果、現在の東日本区の定款を変更することなく一般社団法人の資格を取得することが提案されました。これを受けて 2020 年 11 月に区役員を中心とした法人化準備委員会が設置されました。年度末の代議員会での承認を経て、一般社団法人の登録を目指しています。

法人格を所有することによって、社会的信用と認知度が向上し、社会のニーズに合った活動がしやすくなり、会員増強にもつながることを期待しています。また、組織としての透明性やガバナンスの向上につながることも期待しています。



Change! 2022 プロジェクト



東日本区においては、会員の減少と共に会員の高齢化が進み、このままいくと近い将来、ワイズ運動の重大な危機を迎えることとなる可能性があります。そこで 2018 年に「2022 年をゴールとする中期会員増強運動を展開すること」が区役員会で承認されました。期間は、2022 年 12 月まで、目標会員数は、東日本区発足の 1997 年時点の会員数の 1,246 名です。会員増強事業委員長を中心に新たなメンバーを募り、公募によって名付けられた「Change! 2022」プロジェクトがスタートしました。活動資金は、東日本区ワイズ基金 (JEF) から 280 万円が拠出されました。また、E 担当の各部エクステンション委員長、MC 担当の各部会員増強主査も加わった「拡大 EMC 事業委員会」も組織され事業計画も作成されました。

<事業計画の概要>

- ・5 人以上の新クラブの推進。新しいワイズ像の構築
- ・部エクステンション委員会の活動による新クラブ作りへの支援
- ・SNS による情報発信。(現在約 30 クラブが Facebook を立ち上げている)
- ・新クラブ設立のためのパンフレットの作成
- ・Change! 2022 ニュースの発行(毎月)
- ・EMC アンケートの実施(クラブ向け・会員向け)
- ・EMC シンポジウムの開催



実施した EMC アンケートの結果、会員のワイズに求めものは、奉仕 90%、社交 50%、研鑽 40%、居場所 29%、ステータス 9%でした。ワイズの抱える課題は、会員の減少、会員の高齢化、知名度の低さ、会員の金銭負担、違和感のある例会プログラム、魅力のない例会、魅力ある CS 活動の不足でした。これ等のことを検討し、「Change! 2022 アクションプラン」を作成しました。

2020 年 2 月に開催した EMC シンポジウムでは「Change! 2022 アクションプラン」と東日本区で一番元気のよい「甲府 21 クラブの活動報告」の発題を題材としてグループディスカッションを行い EMC の意識向上を図りました。

現在は、新型コロナウイルスの影響で例会だけでなく、ワイズ活動そのものが殆どできない状況になっています。そこで新たに『アクションプラン II』を作成しました。リモートを取り入れた例会の推奨、新クラブ設立の助成金制度(新クラブおよびスポンサークラブへ)、2022 年までに周年記念を迎えるクラブに、他クラブメンバーから会員候補者を紹介する「アニバーサリー プレゼント プラン」です。

区の法人化の検討も始まりました。コロナ禍におけるモチベーションの低下が会員の減少に繋がらないように、会員間のコミュニケーションへの配慮が求められます。



ワイズとYMCA の関係をどう進めていくのか

アジア太平洋地域 YMI リエゾン 山田公平

日本では 2017 年末から年に 2 回 1 泊 2 日で話し合いを行ってきました。東西のワイズ日本区から 3 人ずつ、全国の YMCA から 3 名、そして元 YMCA スタッフのリエゾン山田が入り、10 人がそろって話し合ってきました。

本音で話し合いを行っていますが、YMCA の本音が見えてきません。意見はどんどん出てきますが、持ち帰った現場では思うように進まないという現実にあつちかひます。何故でしょうか？それは、YMCA によつても違ひがあり、組織の規模や考え方、置かれている課題が大きく違ひうからかも知れません。

今年は、コロナ禍勃発により、ワイズも YMCA も多くの活動ができない状況が続いています。今年に入つてからのパートナーシップ委員会も対面での会議はせず、テレワークで 2、3 か月に 1 回程度集まっています。YMCA は、コロナ禍で危機意識が出ていて、ワイズとのパートナーシップは、優先課題になっていません。むしろ、YMCA は独自に「社会問題に目を向け、地域社会を巻き込むような YMCA にならなくては」という意識を持つところが出てきています。

一方で、コロナ禍で受けた損失をどう回復させるかという難題も同時に進行しています。YMCA によつては、その課題が大きく、その先までは考える余裕もないという現状も見取れます。2021 年以降の YMCA の在り方は、このふたつのタイプの YMCA で大きく分かれていくのではないのでしょうか？この時代の在り方が YMCA にとって大きな分かれ目になるかも知れません。

各地の YMCA の中でも、比較的小さい規模で子どもや青年、あるいは福祉や地域活動にかかわつてきた YMCA にとっては、今が YMCA の新しい形と姿に移り変わっていくチャンスにしようとしています。そのような YMCA では、その変化を起こす応援団の一組織としてワイズが人と資金を集め、協力していくことが 1 つの新しいパートナーシップ事業になります。そんな大きな節目にあるように感じています。

ポストコロナの時代に、地域に根差して貢献していこうとする YMCA にワイズの力は重要な戦力にもなり得ます。同時に、ワイズにとつても、目的が明確になり、ワイズにとつても痛みの伴う変化が求められますが、新しいスタイルのワイズとして強化されることになると思っています。





リーダーシップツールとしての「歴史」

アジア太平洋地域ヒストリアン ラモナ・モラレス

「歴史」は、私たちの組織の多くの事業分野の一つです。しかし、それは、明らかに最低限度の認識しか与えられていないように見えます。ここでその価値を説明することで、「歴史」が評価され、重要性が正しく認識されることを願います。

私たちは、世界で最も長い期間奉仕している最大の青少年団体である YMCA と特別なパートナーシップを結んでいる唯一の奉仕団体です。私たちの使命は、キリストの教えに支えられています。私たちは、無私に奉仕します。これらの事実は、ワイズメンとして誇りを持つには十分な理由になるはずです。

1922 年から約 100 年、私たちの組織は驚くべき成長を遂げてきました。創設者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事が率いた 15 名の小さな組織から、今日では約 26,000 名の会員を擁するまでになりました。しかし、この成長に伴い、世界的なパンデミックが懸念される中、世界的な変化に適応しなければならないという課題も出てきました。

「過去にこだわる必要はなく、重要なのは未来だ」というコメントを耳にします。しかし、時間が進化していく中で、参照すべき資料としての歴史を記録したものだけが、私たちがどのように歩んできたのか、どのようにすればより良い方向に進むことができるのかを教えてください。

今問題となっているのは、私たちがどれだけ歴史に注意を払ってきたか、あるいは私たちの地域の記録を統合する必要性にどれだけ気を配ってきたかということです。

国際ヒストリアン、元地域会長のデビー・レッドモンドは、2020 年 9 月 12 日のメモの中で、「多くの人が 75 周年記念のために書かれた記念誌に対して、それがグローバルなものでなく、また、よりグローバルなものにするための情報が提供されなかったとして不満を持っていました。」と書きました。そして彼女は、それに対して、「重要な日付、写真（過去と現在）、追加情報があれば大歓迎です」とアピールしました。

私は、アジア太平洋地域には語るべき良い物語がたくさんあり、長年に亘って誇りを持ってきた膨大な実績があることに疑いの余地はないと思います。「歴史」の重要性に注目して、デビッド・ルア地域会長は、アジア太平洋地域の歴史を文書化することを決意しています。

「歴史」を利用するということは、組織がその過去をどのように活用できるかを説明し、前の世代のリーダーがどのように課題や機会に立ち向かい、対応したかを示します。リーダーの仕事は、未来のために、インスピレーションを与え、賢い戦略を考案することです。偉大なリーダーたちは、歴史を意識し、その力を認めてリードすることは、過去の奴隷になることではないという基本的な真理を尊重しています。彼らは、自分自身を歴史家として見ていないかもしれませんが、過去を思い出すことは有用であると考えています；そうすることで、歴史の中で彼らの場所を確立します。

ビジネス戦略および組織についての偉大な歴史家であるアルフレッド・D・チャンドラー Jr. は、彼の同僚に以下を繰り返し尋ねました。「あなたがどこにいたか知らなければ、あなたがどこに行こうとしているか知ることができますか？」。言い換えれば、「振り返って計画を立てよ」ということです。

私は、このチームのメンバー全員に、区の遺産を共有することに積極的に参加し、今年のあなたの仕事の「なるほど！と思う瞬間」を歴史の一部にして欲しいと思います。それは、次の世代の私たちの地域の道しるべを提供することを助けるでしょう。

イエス・キリストの教え



台湾区 キリスト教強調事業主任 マーク・リン

ワイズメンズクラブ国際協会の使命は、「イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働き、YMCA に対しての忠誠心を共にしつつ、活発な奉仕活動を通じて、リーダーシップを開発、助長、供給して、全人類のためよりよき世界を築くこと」にあります。

「イエス・キリストの教え」とは何でしょうか？キリスト教の道徳的な教義なのか、宗教的な信条なのでしょう。クリスチャンの方は、おそらく答えを持っていると思いますが、私たちの中のノンクリスチャンの方は、どうでしょうか？彼らは、聖書の中のイエス・キリストの教えを明確に理解しているのでしょうか？私たちは、どのように

してこれらの教えを理解するのを助けることができるでしょうか。

ワイズメンズクラブ国際協会の憲法とガイドラインに明確な説明を見つけることができます。そこには、「イエス・キリストの教えに基づく」とは、クラブ会員がイエス・キリストが教えたことを受け入れ、その教えを実践する意思があることを意味していると書かれています。これは、より良い社会を構築するためのワイズメンズクラブのプロジェクトの運営モデルを会員が決定する際の指針となるはずで

す。台湾人である私たちは、「教え」というと「指導」を思い浮かべることが多いです。しかし、国際憲法やガイドラインでは、「教え」とは受動的な指示だけではなく、行動も含めて言及しています。

聖書の中の「イエス・キリストの教え」を 3 つ紹介しましょう。

1) 謙虚さをもって人に仕える

イエスが弟子たちの足を洗った話は、サーバントリーダーシップの優れた例です。イエスは弟子たちに言われました。「しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、あなたがたの中で頭になりたい者は、皆の僕になりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」(マタイによる福音書 20:26-28)

イエスは教えられたことを実行されました。ひざまずいて、弟子たちの足を洗いました。これは人々に仕える模範でした。イエスは、私たちが謙虚になり、やさしく親切に話し、愛し合い、互いに高め合うことを教えています。

2) 赦し

十字架にかけられたときに、イエスが侮辱され、あざけられ、屈辱を受けたとき、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです。」と言われました。(ルカによる福音書 23:34)

3) 隣人を愛し、敵を愛する

イエスは、「目には目を、歯には歯を」で応えてはいけなと教えられました。イエスは言われました。「誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。あなたを徴用して 1 ミリオン行けと命じる者がいれば、一緒に 2 ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。」(マタイによる福音書 5:38-42)。イエスはまた、隣人を愛するだけでなく、敵を愛し、迫害する者のために祈ることも教えてくださいました。

イエスは、私たちがただ聞くだけではなく、御言葉を実行する者となるよう、私たちを鼓舞してくださいました。ワイズメンズクラブの使命は、イエスの教えを生きたものにするために会員を励ますことです。これらの基本的な原則は、仲間のワイズメンの意思決定、プロジェクトの実施における指針となり、個人の生活を通して生きた証となります。私は、ベテランのワイズメン、ウイメンの皆さんに、ワイズメン、ウイメンとしての奉仕の中で他の人々を祝福するために、イエスの教えを肯定することを心からお勧めします。このワイズメン運動が、私たちの社会をより良いものにしていくことを願っています。

キリスト教強調はキリスト教にあらず

アジア太平洋地域 キリスト教強調事業主任 澁谷弘祐牧師

私たちの活動の指針であるキリスト教強調について、一緒に考える機会になることを切に願っています。



1. キリスト教強調以前に強調されること

私たちは、多文化共生社会で生活しています。世界各地で発展してきた人類の歴史、文化、宗教を下地として、近代以降は人権、性差、環境といった要素が加わりました。前者は、家族、民族、国家といった集団(共同体)に多く見られる価値観とすれば、後者はより細分化された個々人に見られる価値観です。第一に強調されるのは、私たちがこのような多様な価値観に根ざした社会奉仕団体であるという点です。

また、私たちは、社会奉仕団体であると同時に運動体です。具体的には、YMCA 運動に賛同し、その活動支援を通して YMCA の理想の実現を図る活動団体です。キリスト教強調は、ワイズメンズクラブ固有の価値観であるというよりも YMCA 運動に根ざした価値観です。故に、その支援団体であるワイズメンズクラブもこのことに理解を持つ必要があるでしょう。第 2 に強調されるのは、多様な価値観の中でキリスト教強調が求められる理由は、YMCA が保持する価値観であるという点です。

2. キリスト教強調—キリスト教と人類の歴史・宗教改革

キリスト教強調は、キリスト教が人類の発展と共に作り上げてきた価値観を学び、今日に適応することです。例えば、私たちが日常私用する歴に西暦があります。西暦は、キリスト誕生を紀元として数えます。キリスト教信者であるかないかを問わず、年月の数え方として一般化した西暦を用いて人類は既に 2,000 年の歴史を積み上げています。ルターの宗教改革までの約 1,500 年の間、ヨーロッパは、カトリック教会を国教とする文化の中で成長してきました。宗教改革以後に登場するプロテスタント教会とは、カトリック教会への抗議文(=Protestatio)を発した人々が形成した教会という意味です。これはキリスト教内の内部分裂ではありません。キリスト教成立期に遡る、あるいは本来のキリスト教を取り戻す運動でした。宗教改革直前のヨーロッパの状況は、その 1 世紀ほど前にペストの流行や 2 人の教皇が存在する教会分裂など、病気・紛争・不安定な政治によって人々の不安が高まっていました。平穏な生活を送る人々にも、いつ自分が突如生活基盤を失い最悪の場合死に至るか分からない時代でした。その不安を直接解消できず、間接的に解決したのが贖宥状(免罪符)です。死んだ近親者の魂を救い、いずれは自分もこの世の不幸から救われることを願い、人々は買い求めました。しかし、不安の根底は、解決されません。人間の価値、価値ある生が軽視される状況では、制度が優れていても人間の価値を根本から高めて価値ある生を与えるには至りませんでした。宗教改革は、イエスの生きた時代の再来を願い、初期キリスト教が人々に与えた価値ある生を再構築していきました。イエスが当時のユダヤ教の教えや伝統、文化を再構築して人々に価値ある生を発見させたように。

3. キリスト教強調—YMCA 創立者ジョージ・ウィリアムズに見る

宗教改革について書いたのは、ここに繋げるためです。彼は、はじめ英国国教会で洗礼を受け、キリスト教信者になりました。後に会衆派教会に転籍します。会衆派教会はイギリスにおける宗教改革です。会衆派教会は、この世の権威である王権などからの政治的独立と、信者一人一人による合議制による自治に特徴があります。独立や自治は、成熟した個人が充分考え抜いた上で個人の責任で行う意志決定手段です。聖書は、この価値観を自由と表現します。従って、初期キリスト教の価値観を体現していると言えます。

4. キリスト教強調はキリスト教にあらず」

イエスの愛の教えという定義は、個人を最大限尊重することと、イエスに訴えたことで価値を知られるようになった無名の個人が、イエスを通して繋がっているという意味です。ジョージ・ウィリアムズがはじめた YMCA 運動は、信仰の異なるキリスト教信者が集まったのではなく、イエスによって価値ある生を知ったキリスト教信者が信仰を越えてイエスの体現した価値観のもとに一致して、価値ある生の実現を目指しているのです。

5. アジア太平洋地域におけるキリスト教強調事業について

私が本務教会で語った説教から動画を撮影して公開する予定です、また併せて、今回同様にキリスト教に関するコラムを執筆する予定です。

6. ワイズメンズクラブ国際協会におけるキリスト教強調事業について

キリスト教強調国際事業主任によるニュースが出ています。ルターの宗教改革に触れられています。なるべく早く皆さんにご紹介いたします。



祈りの週-南東アジア区

南東アジア区 キリスト教強調事業主任 P・J・ジョン牧師

南東アジア区は、11月9日からZoomによる毎日1時間の讃美と礼拝で、2020年11月8日～14日に開催された世界YMCA/YWCA合同祈禱週に参加しました。

シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、香港、ネパール、フィリピンの南東アジア諸国から毎日10名から20名の参加がありました。讃美と礼拝のセッションは、合同祈禱週の冊子に沿って、区のリーダーたちによってリードされ、その後、神がワイズメン、ワイズウイメンを守り、パンデミックから安全でいられるように熱心に祈る時間が続きました。

神の知恵と導きが、私たちの指導者、特にジョアン・オン区理事とデビッド・ルア地域会長に与えられるようにと祈りが捧げられました。2つのセッションでは、新たにチャーターされたジョホールイーグルス Y サービスクラブの歌手で2012年のマレーシアポップスターのチャンピオンのヴァレリー・ラウが「安静」と「無謀な愛」の讃美歌をリードしました。参加者は、彼女の美しい歌唱とメロディアスな声を堪能しました。祈りと交わりの中で、イエスを信じる者すべてに与えてくださる「希望の光」に思いを馳せながらの讃美と礼拝の素晴らしい時間となりました。

この第1回目の祈りと礼拝のセッションの反響に励まされ、刺激を受け、キリスト教強調区事業主任のP・J・ジョン牧師、ジョホールイーグルスクラブのデズモンド・リー会長、ジョアン・オン区理事、タイ・チェンマイのラシャン・マンカーン区YMCAリエゾンからなる区キリスト教強調チームは、2020年12月から毎月第1土曜日に祈りの交わりを持つことに合意しました。

シャローム

アジア・太平洋 YMCA 同盟 グリーンアンバサダー・トレーニング

アジア太平洋地域 グリーン活動事業主任 コリン・ランビー

アジア・太平洋 YMCA 同盟 (APAY) は、2009 年に「グリーンチーム」と呼ばれる環境委員会を立ち上げました。私は、APAY グリーンチームのメンバーとして活動しています。APAY グリーンチームは、2011 年に開催された APAY 総会で、YMCA のスタッフとサポーターが何を必要としているかを決定しました。その結果、圧倒的に必要とされていたのは研修でしたので、それ以来毎年研修を実施しています。温室効果ガスとは何か、そのガスは、どこから来ているのか、YMCA の建物などの施設の二酸化炭素排出量の計算方法、削減方法、2030 年までに「カーボンニュートラル」になるための計画の立て方など、環境と気候変動に関連したいくつかの分野をカバーしています。私は通常、二酸化炭素排出量の計算方法や、最近では 2030 年までに「カーボンニュートラル」になるための計画の立て方についてのトレーニングを行っています。

ワイズメンズクラブ国際協会と YMCA のパートナーシップは、この重要な活動をお互いに助け合うことで強化することができます。これは、クラブレベル、区レベル、地域レベルでも可能です。私が委員長を務めるワイズメンズクラブ国際協会のグリーンチームは、国際レベルでのワイズメンズクラブ国際協会と YMCA のパートナーシップを強化しています。
<http://www.ysmen.org/our-work/environment/>を参照してください。

新しい IBC 誕生!

アジア太平洋地域 IBC 事業主任 田中博之

11 月 14 日、オーストラリア区・アデレード Y サービスクラブと東日本区・甲府 21 ワイズメンズクラブとの IBC (国際兄弟クラブ) 調印式が成功裡に行われました。

甲府 21 クラブは、現地に利根川国際協会 IBC 事業主任、田中アジア太平洋地域 IBC 事業主任、板村東日本区理事をはじめ、他クラブからも多くの来賓を迎え、クラブ創立 30 周年記念例会の中で調印式を開催しました。アデレードクラブ側は、元地域会長のラッセルと直前国際会長のジェニファーのジョーンズ夫妻の自宅に集まり、両会場を Zoom で繋いで調印式が行われました。また、先日バランタイン賞を受賞したワイズメンズクラブ国際協会の IBC 一覧の編集者であるマレー・スティーブンスもオーストラリアのバララットから参加し

ました。Zoom の活用は、現在の新型コロナウイルスのパンデミックの状況下での IBC 調印式や折々の IBC クラブ同士の会合を含めた IBC 活動の大きな可能性を示しています。

今回の IBC 調印は、2016 年 8 月に旧アジア地域と南太平洋地域が統合されて以来、旧両地域のクラブによる初めての調印となりました。これにより、新しいアジア太平洋地域内での連帯が一層深まることを願っています。現在も多くの IBC 締結の計画が進行中であり、今期中に多くが実現することを期待しています。

オーストラリア・ワイズメンズクラブ国際協会奨学金受賞者

ホバート出身のマディー・ジョダンが 2019 年 IC ハワード/YMI 奨学金を受賞しました。

これは、YMCA スタッフの教育をさらに発展させるための 5,000 豪ドルの奨学金です。この奨学金は、オーストラリアの Y サービスクラブが誇りを持ってスポンサーとなっていて、過去の奉仕活動への報酬としてではなく、将来の利益を目的としています。

マディーは、YMCA クラレンス 水泳センターのスイムスクールの役員であり、生徒数をこれまでの 500 人未満から 700 人以上にまで、スイミングスクール事業を成長させました。彼女は安全で質の高いプログラムを提供することに尽力していて、YMCA での将来の機会に大きな可能性を示しています。

マディーは、リーダーシップマネジメント TAFE コースで勉強するための奨学金を獲得し、日々の管理業務の改善に役立つだけでなく、スイミングスクールの年間予算や計画を支援するための実践的な財務業務などのスキルをさらに向上させることができます。マディーは、2020 年末までに卒業する予定です。

「奨学金のおかげで、リーダーシップマネジメントコースを受講することができただけでなく、正しい道に進むことができたと感じています。以前は、勉強を楽しむことはありませんでしたが、今では楽しんで学んでいます。そのおかげで、次のビジネスコースか、もしかしたら学位コースを受けたいと思うようになりました。」
(マディー・ジョダン)



2022 年のハワイ国際大会でのボランティアを募集しています。

ご興味のある方は、デビッド・ルア地域会長/利根川恵子地域書記までご連絡ください。

ウェブサイト: <http://www.ysmenap2020.site/>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/aspsymen>

ブリテン編集チーム

編集長

コリン・ランビー

デザイナー

ディーパック・バンダリ
マリア・マグダ・ガーナ

配布

利根川恵子

アドバイザー

デビッド・ルア

ラモナ・インダイ・モラレス

(日本語版編集: 田中博之)